

## 力を合わせて一人一人が力を付けよう

生徒会の新たな取り組みが昨日から始まりました。全員が午前八時に着席して朝読書が始められるようにするというものです。バス通学の生徒にも配慮しながら、生徒たちは全員でさわやかな朝を迎えようと頑張っています。

その取り組みの影響でしょうか。今朝の登校時間は全体的に早かったようでした。とりわけ、いつも八時近くに登校する生徒が、余裕をもって登校していました。しかし、全員というわけにはいかず、私の前を八時間近に通り過ぎていった生徒も何人かいました。

北中の生徒は間に合わなかった仲間を責めることはしません。ねばり強く励ましたり呼びかけたりして、一人一人の意識が高まるのを期待します。そうして、全員で達成できたことを喜び、団結力の高まりを自覚します。

しかし、残念なことに、それがその後持続するとは必ずしも言えません。取り組んだその時は、確かに全体の波に乗って達成できても、それがその後の一人一人の力になるかどうかは別問題です。

それが中学生です。周りの影響や力で達成できるということとは、北中の生徒が素直だからです。仲間との良好な関係が築けており、その仲間の呼びかけや働きかけに協力しようとする姿勢があるからです。北中の生徒のよさの一つであり、中学生らしさだとも言えます。

もう一つの中学生らしさがあります。それは、判断を個に任せると、できることができなくなってしまうことです。それが、大人になり切れていない子供の部分だと言えます。自分の判断で余裕が作り出すことができるようになると、周りの信頼も集まりますし、何よりも物事に思慮深く取り組めるようになります。そうなるための第一歩が、中学生時代に踏み出せると理想的ですね。

北中が大切にしている「主体性」は、そういう余裕が生まみ出せる中から生まれてくるものです。毎日が綱渡りの生活をしていては、落ちないようにすることで精一杯。毎日がハラハラドキドキの生活になるでしょう。

小学二年生の国語で勉強した『スイミー』。小さな魚たちが団結してマグロをやっつける話でした。中学校はそれだけではいけません。一匹になっても敵から身を守り、生きていく方法を身に付けなければなりません。それが義務教育として、中学校がある理由です。力を合わせながら一人一人が力をつけようね。

(十月二十日 記)

